主な関係著書，論文

小気候，地人書館，東京，274p，1961.

Some local characteristics of the winds as revealed by wind-shaped trees in Rhone valley in Switzerland, Erdkunde (Bonn), **18**, 28—38, 1964.

Water balance of Monsoon Asia, University of Tokyo Press, Tokyo, and University of Hawaii Press, Honolulu, 308p., 1971〔編著〕.

Studies on wind-shaped trees: Their classification, distribution and significance as a climatic indicator, Climatological Notes, (12), 1—52, 1973.

Climate in a small area, University of Tokyo Press, Tokyo, 549p., 1975.

Local wind Bora, University of Tokyo Press, Tokyo, 289p., 1976〔編著〕.

昭和52年度岡田賞受賞者きまる

本年度の岡田賞（岡田武松先生記念事業）は，下記の日本気象学会会員が受賞した.

高層気象観測の基礎確立と充実を図り気象業務に貢献した功績

北岡龍海（宇宙開発事業団理事）

高層気象観測による資料は，数値予報および航空気象等，予警報業務の基礎資料として重要な役割を果たしている.

北岡龍海氏は，昭和26年以降昭和37年に至る間，観測用器材の製作，納入検査から観測実施に至る高層観測業務体系の適切な品質管理体制の導入と，ゾンデに使用周波数の改変を行ない，ラジオゾンデと，その観測装置（D55A型エコー方式）の画期的改善をし，観測精度および信頼性の格段の向上と，特殊ラジオゾンデの実用化など，観測内容の充実を図ると共に，つとに南西諸島における高層気象観測の必要性を重視し，沖縄復帰前に当時まだ軍政下にあった琉球気象台管内の高層気象観測の実施に尽力し，高層気象観測網の拡充を図り，現在みられる高層気象観測網を完成した.

この間，国際地球観測事業に果した成果はもとより，我国における気象技術および業務の発展に尽した功績は極めて顕著である.

大気汚染と気象に関する調査研究およびその実用化に貢献した功績

中野道雄（大阪市環境保健局）

昭和20年代の後半，大気汚染が社会問題化する前に，気象学的な立場から大気汚染機構の調査研究に着手し，都市大気汚染の実態把握に努め，大気汚染対策の重要性とそのあり方を示唆してきた.

大気汚染が社会問題化するに及んで，大阪において，先駆的な対策として大気汚染予報システムを行政対策に導入するため努力し，成果をあげるとともに，気象条件を考慮した都市大気汚染モニタリングネットワークのあり方を研究し，その確立を促進した.

また，地域の気象条件ならびに発生源の特性に立脚して，各発生源の大気汚染寄与率を推定する方法を最も早く都市大気汚染対策に適用し，実効ある発生源対策の樹立に成果をおさめた.